

今週の T2 経済レポート



2021 年 6 月 4 日号

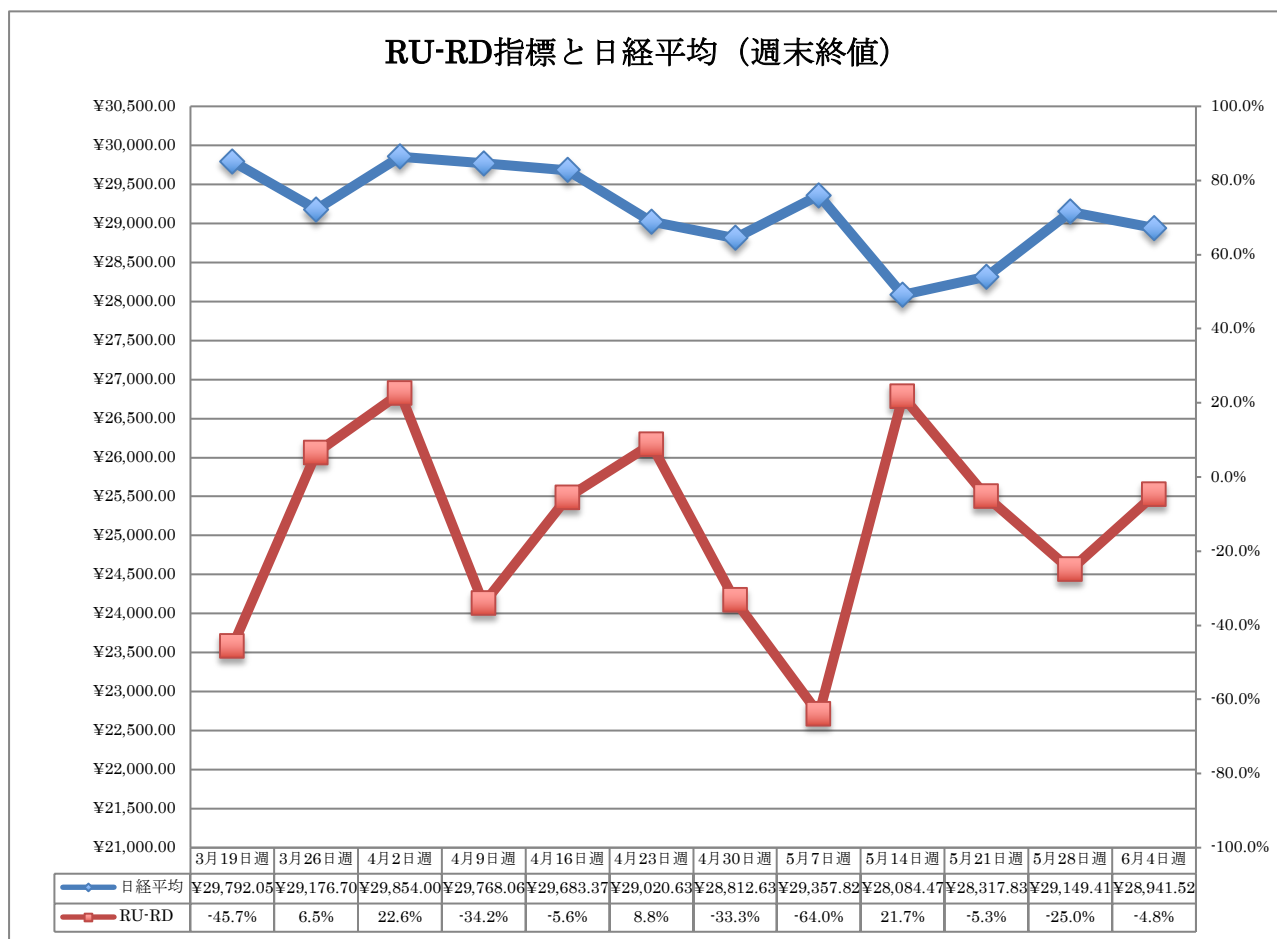
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来は3週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続する週となりそうです。今週(5/31~6/4)の相場を占う『RU-RD 指標』の5月21日週が-4.8%と3週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続しそうです。先週、『5月14日週が-25.0%と2週連続マイナス圏に陥っていることから本来は軟調相場ですが、ここ数週間のような「1週ズレ」が継続しているようですと今週は急落調整の週となるため注意が必要です。』と指摘しましたが、逆に、不自然な株価操縦が行われ29000円台まで急騰しました。不自然な株価操縦の目的は日経平均の「3ヶ月連続月足陰線」を避けるためと考えられます。5月スタートの日経平均が29024円でしたので、本日月曜日31日終値でこの水準を超えると陽線となりますが、1月から5月までこのパターンは戦後、1967年、1998年の2回で年後半に大きく下落するパターンとなっています。ちなみに、3週連続マイナス圏に陥ったのは、昨年10月12日週~10月26日週以来で、この3週連続マイナス圏の後、日経平均は今年2月16日30714円まで30年半振りの高値まで急上昇しました。そして、その日経平均と連動して急騰したのが何度も指摘してきたように仮想通貨の代表である「ビットコイン」でしたが、その「ビットコイン」も4月13日最高値63659ドルから5月23日安値31192ドルまで1ヶ月で-51%の大暴落となっています。これはこのレポートで何度も指摘してきたように「株式市場の先行きを暗示する大きな転換点を迎えている」こととなります。尚、来週(6/7~6/11)の相場を占う5月28日週が+22.0%と4週間振りにプラス圏に浮上していることから本来は急反発となることが予想されますが。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%→4月16日週+21.4%→4月23日週+4.3%→4月30日週+2.9%→5月7日週+7.1%→5月14日週-4.3%→5月21日週-7.1%→5月28日週+2.9%と、先週5月14日週に、昨年8月3日週以来、40週間振りにマイナス圏に陥り、「大きな相場の転換点を示唆したかたち」と指摘しましたが、3週間振りにプラス圏に一旦、浮上しています。ただ先々週、『上昇相場はここで一旦終了し、これからは株価が上昇してもリバウンドの域を出ず、むしろ株価がいつ底となるのかに注意が必要な時間帯に入ることとなります。』

と指摘しましたが、同指標が再びマイナス圏に入るときにそれがより明確になるかと思われます。

今週は、経済指標では、国内は、31日に4月鉱工業生産、6月1日に1-3月期法人企業統計、4日に4月家計調査、一方海外で、31日に中国5月製造業PMI、6月1日に米5月ISM製造業景況指数、2日に米地区連銀経済報告(ページブック)、3日に米5月ADP雇用リポート、米5月ISM非製造業景況指数、4日に米5月雇用統計などが予定されています。6月1日発表の5月米ISM製造業景況指数は61.0と、前回の60.7をやや上回る見通し。また、6月4日発表の米5月雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比+66.3万人、失業率は5.9%と非農業部門雇用者数が大きく持ち直す見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、31日は米・株式市場は祝日のため休場(メモリアルデー)ですが、1日に「OPEC プラス」閣僚級会合、4日に米・「ビットコイン2021」会議(5日まで)などが開催され注目されます。」とコメントしました。



5月14日週	5月21日週	5月28日週	6月4日週
¥28,084.47	¥28,317.83	¥29,149.41	¥28,941.52
21.7%	-5.3%	-25.0%	-4.8%

先週の日経平均は、高値 29157 円(6 月 3 日)・安値 28565 円(6 月 2 日)と推移、3 週連続の前半安・後半高の強いかたち。先週は、米国を中心とした根強い経済活動正常化への期待感のほか、遅れていた国内でのワクチン接種の進展も好感される一方、週末の米雇用統計を前に様子見ムードが強く上値・下値両目標値を達成しない中途半端な動きとなり、週間ベースで-208 円安と、先週の大幅反発の反動で3週間振りに反落して終了しています(先週予告していた上値メド 29273 円～29858 円(+2%かい離)//下値メド 27715 円～27160 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、6 月 1 日までに 29500 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。29500 円大台替えで仕切り直し、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、4 月 21 日に 29000 円大台割れで下落スタートとなり、5 月 13 日に 28000 円大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 22 日間、従って、6 月 4 日までに 27000 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、逆に、5 月 28 日に 29000 円大台替えで仕切り直しが入りました。30000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、5 月に 29000 円大台替えで仕切り直しが入りました。30000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、中長期の強含みは変わりませんが、短期の方向感がなくなり乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 34849 ドル(6 月 1 日)・安値 34334 ドル(6 月 3 日)と推移、3 週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、6 月 1 日発表の 5 月 ISM 製造業景況指数が市場予想を上回ったことや 5 月 ADP 雇用統計(民間雇用者数)の伸びが市場予想を大幅に上回る一方、週末 4 日発表の 5 月雇用統計で非農業部門雇用者数は市場予想を下回ったことから上値・下値両目標値を達成しない中途半端な動きとなりましたが、週間ベースでは+227ドル高と2週連続反発して終了しています(先週予告していた上値メド 34884 ドル～35581 ドル(+2%かい離)//下値メド 33648 ドル～32975 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、30 日(日曜日、かつ 31 日がメモリアルデー休場のため 6 月 1 日)までに 35000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。35500 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、34000 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、5 月 12 日に 34000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。33000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、35000 ドル大台替えで仕切り直しが入ります。長期の方向を示す月ベースでは、5 月に 34000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。33000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、35000 ドル大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期→、中期↓、長期↓、となり、中長期の弱含みは変わりませんが、短期の方向感がなくなり、乱高下しやすいかたちに変化しました。

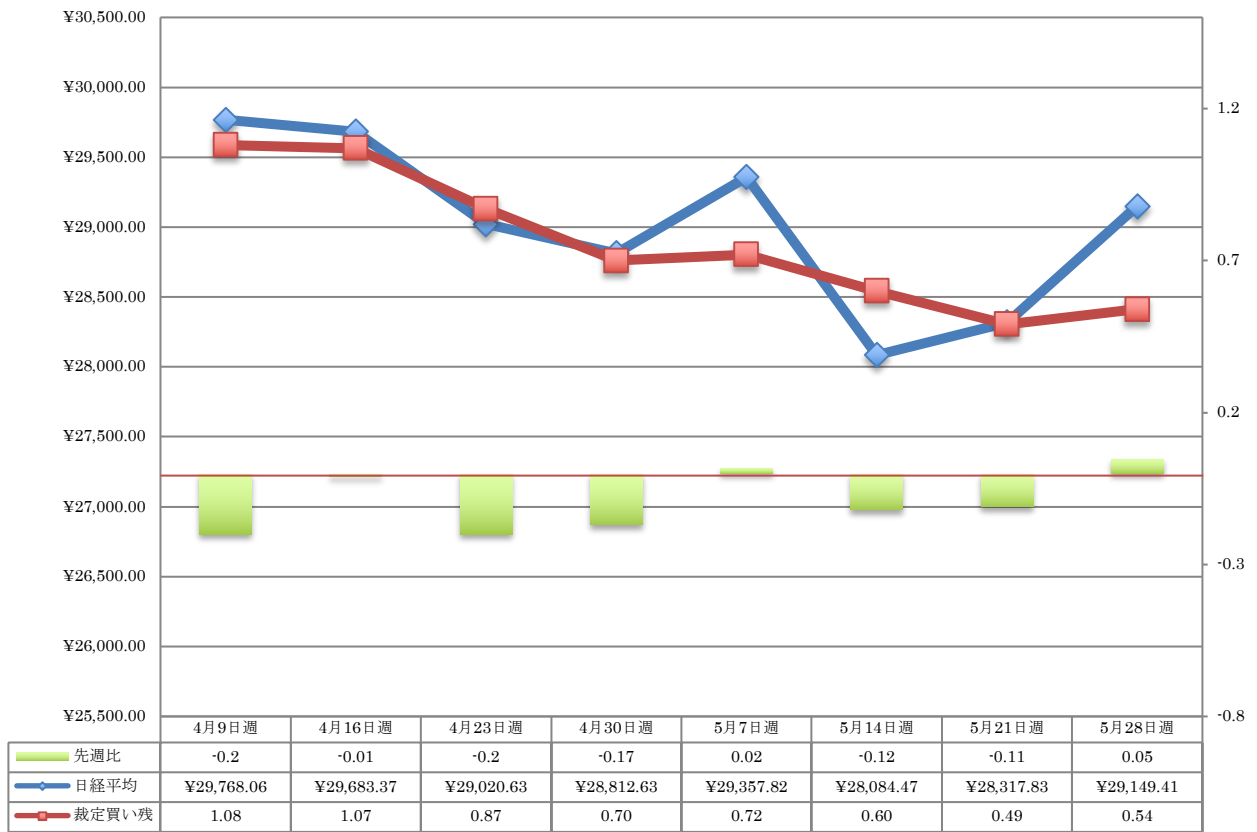
一方、為替は、ドル・円が 110.33 円～109.31 円(先週予告していた上値メド 109.95 円～111.04 円

(+1%かい離)//下値メド 108.76 円～107.67 円 (-1%かい離))と推移、上値目標値を達成し、実質 5 週連続の円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.2254～1.2102(先週予告していた上値メド 1.2297～1.2419(+1%かい離)//下値メド 1.2169～1.2047(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、実質 2 週連続のドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、134.12 円～133.10 円(先週予告していた上値メド 134.23 円～135.57 円(+1%かい離)//下値メド 133.08 円～131.74 円(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週となりましたが、実質 6 週間振りに円高・ユーロ安。前の週のドル>ユーロ>円からドル>円>ユーロに変化しましたが、ドル高は 2 週連続で継続したかたちです。6 月 1 日発表の 5 月 ISM 製造業景況指数が市場予想を上回ったことや 3 日発表の 5 月 ADP 雇用統計(民間雇用者数)の伸びは市場予想を大幅に上回ったことから、米国経済の正常化によってインフレ進行の可能性と量的緩和策の段階的な縮小からユーロ売り・米ドル買いが強まったかたちです。

<裁定買い残・裁定売り残>

3 週間振りに増加しています。3 月 1 日週は 15 年 11 月 16 日週以来の 5000 億円超の増加、次週 3 月 8 日週は 16 年 1 月 4 日週以来の 7000 億円超の減少、更に次の週 3 月 15 日週は 4600 億円増、3 月 22 日週は約 2700 億円増、3 月 29 日週は 1530 億円減少、4 月 5 日週は 1987 億円と、6 週連続で 1500 億円～約 7000 億円の巨額の増減を繰り返す異常な現象が続きました。このように巨額な増減を繰り返しても相場が乱高下しないのは「ブロック取引」が行われているためでファンダ、ヘッジファンドの精算に伴う処理が行われていた可能性があります、落ち着いてきたかたちです。一方、「裁定売り残」は、前の週比-881 億円の 8107 億円と 3 週連続で減少。コロナショック目前の 20 年 2 月 17 日週以来となる 8000 億円台まで縮小し、そろそろ買い戻しに一巡感が出ています。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

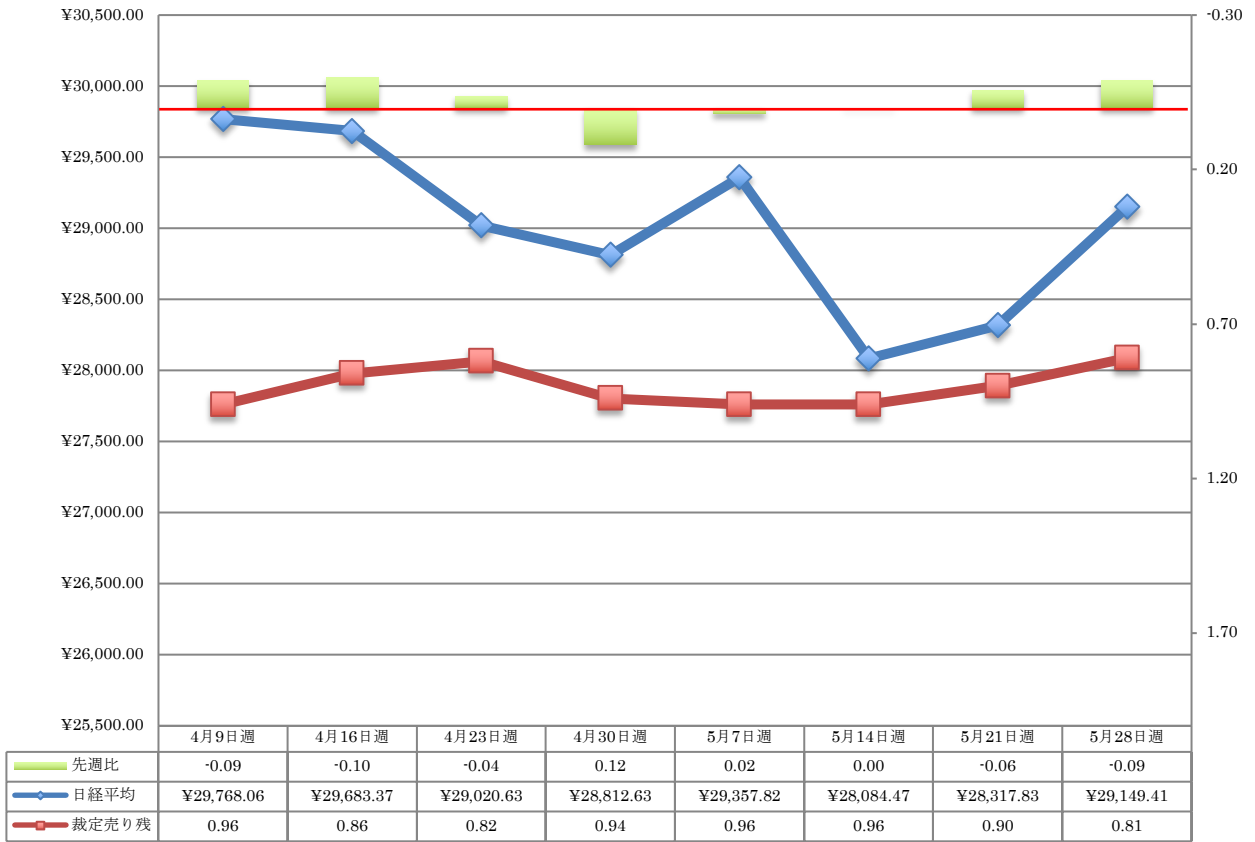
裁定買い残と先週比



	5月7日週	5月14日週	5月21日週	5月28日週
日経平均	¥29,357.82	¥28,084.47	¥28,317.83	¥29,149.41
裁定買い残	0.72	0.6	0.49	0.54
先週比	0.02	-0.12	-0.11	0.05

単位:兆円

裁定売り残と先週比



	5月7日週	5月14日週	5月21日週	5月28日週
日経平均	¥29,357.82	¥28,084.47	¥28,317.83	¥29,149.41
裁定売り残	0.96	0.96	0.90	0.81
先週比	0.02	0.00	-0.06	-0.09

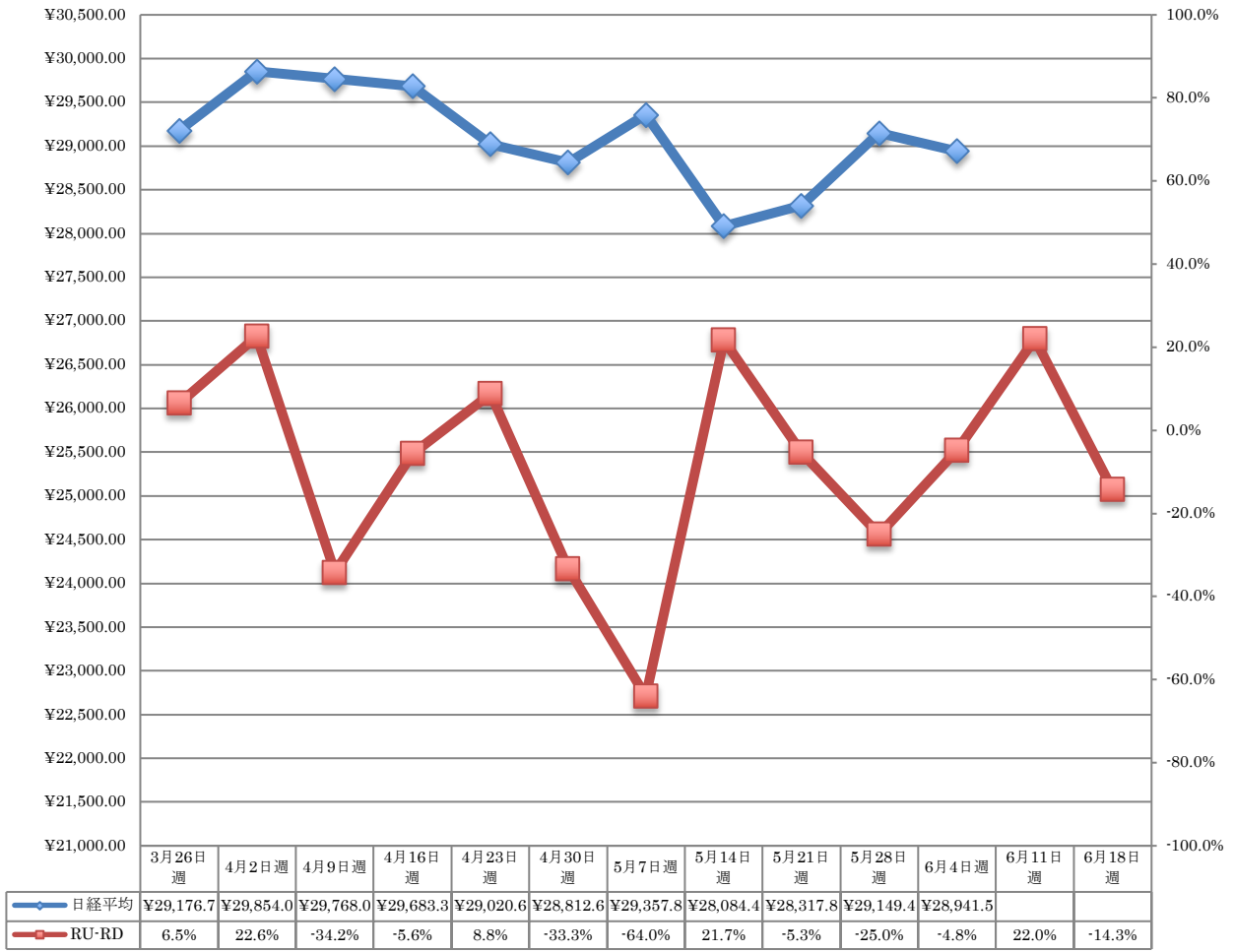
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は本来なら急反発となることが予想されますが、前の週までの3週連続マイナス圏で急落調整が起きないよう株価操縦されていたことで急反発の可能性は低くなったかもしれません。今週(6/7～6/11)の相場を占う『RU-RD 指標』の5月28日週が+22.0%と4週間振りにプラス圏に浮上していることから本来なら急反発となることが予想されますが、前の週までの3週連続マイナス圏で急落調整が起きないよう株価操縦されていたことで急反発の可能性は低くなったかもしれません。来週(6/14～6/18)の相場を占う6月4日週が-14.3%と再び、マイナス圏に陥っていることから本来なら急落調整となりますが、今週、急反発とならないとその可能性も小さくなります。先週までの3週連続マイナス圏のなかで急落調整が起きなかったのは週末に控えるメジャーSQのためと思われますが、19年12月～20年1月の3週連続マイナス圏でも同様の株価操作が行われ、その反動安が「コロナショック」というかたちで現れています。また注目された日経平均の5月月足は陰線となり「3ヶ月連続月足陰線」となって、1月から5月までのこの月足パターンは戦後初となりました。ちなみに、1月～4月までの月足パターンは1967年、1998年の2回のみで年後半に大きく下落するパターンとなっています。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%→4月16日週+21.4%→4月23日週+4.3%→4月30日週+2.9%→5月7日週+7.1%→5月14日週-4.3%→5月21日週-7.1%→5月28日週+2.9%→6月4日週+4.9%と、5月14日週に、昨年8月3日週以来、40週間振りにマイナス圏に陥り、「大きな相場の転換点を示唆したかたち」と指摘しましたが、直近は2週連続でプラス圏に一旦、浮上しています。『上昇相場はここで一旦終了し、これからは株価が上昇してもリバウンドの域を出ず、むしろ株価がいつ底となるのかに注意が必要な時間帯に入ることになります。』と指摘しましたが、同指標が再びマイナス圏に陥るとき大きな下落に発展することは昨年の「コロナショック」でも証明済みで、再び、マイナス圏に陥ると要注意です。

今週は、経済指標では、国内は、7日に4月景気動向指数、8日に4月毎月勤労統計調査、5月景気ウォッチャー調査、10日に5月都心オフィス空室率、11日に4-6月期法人企業景気予測調査、一方海外で、7日に中国5月貿易収支、8日に米4月貿易収支、9日に中国5月生産者物価指数、10日に米5月消費者物価指数(CPI)、新規失業保険申請件数、6月ミシガン大学消費者信頼感指数などが予定されています。10日発表の米5月消費者物価コア指数(CPI)は前年比+3.4%で上昇率は4月実績の3.0%を上回る見込みでインフレ進行の懸念は依然くすぶっています。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は11日メジャーSQ、海外は10日欧ECB定例理事会、が注目されますが、翌週に注目のFOMCを控えていることも考慮すると、週末のメジャーSQは大きな節目。特に、今2021年は西暦末尾「1」の付く「辛(かのと)」で、過去を振り返ると、2001年「9.11」、2011年「3.11」から残る「6.11」のメジャーSQの日は何が起きるのか注目が集まっています。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



5月28日週	6月4日週	6月11日週	6月18日週
¥29,149.41	¥28,941.52		
-25.00%	-4.80%	22.00%	-14.30%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 29664 円～30257 円 (+2%かい離)

下値メド 28724 円～28149 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 35185 ドル～35888 ドル (+2%かい離)

下値メド 34509 ドル～33818 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 110.64 円～111.74 円 (+1%かい離)

下値メド 109.35 円～108.25 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.2250～1.2372 (+1%かい離)

下値メド 1.2121～1.1999 (-1%かい離)

<ユーロ円>

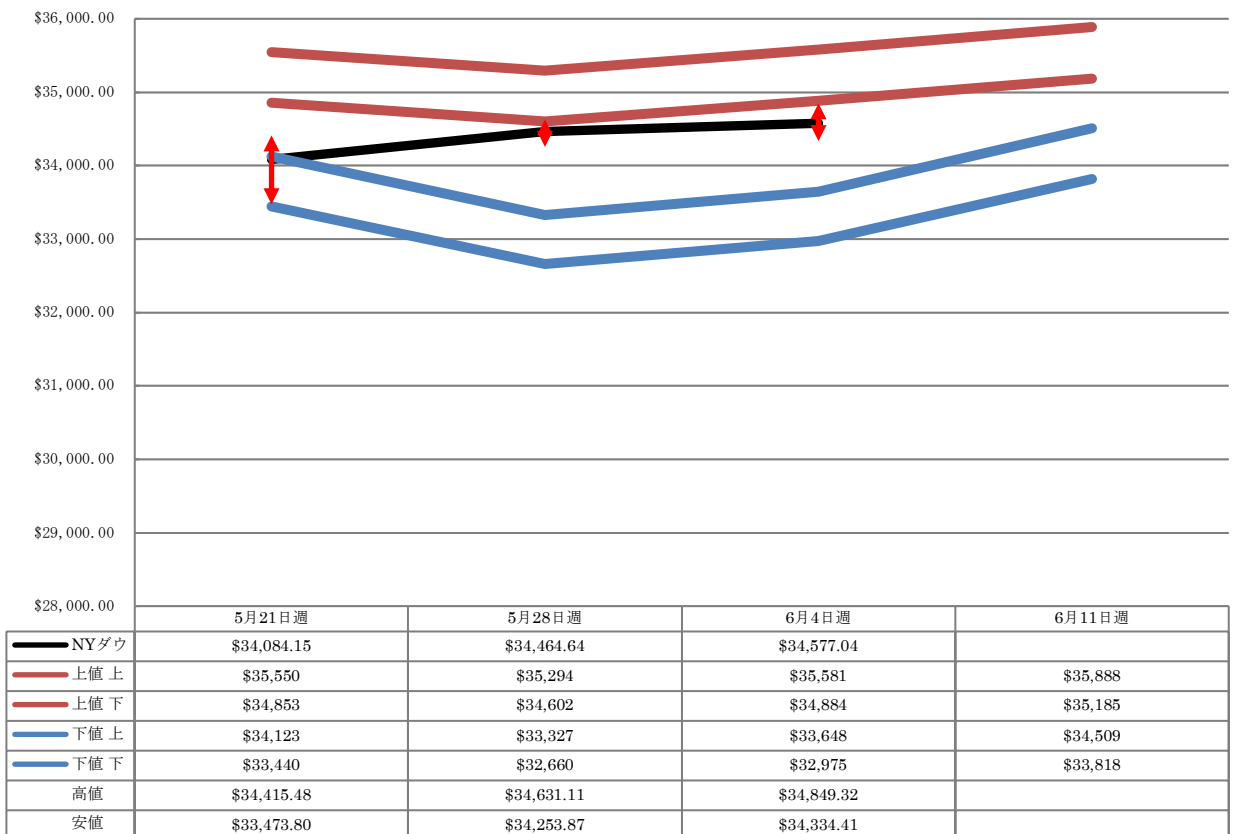
上値メド 134.40 円～135.74 円 (+1%かい離)

下値メド 133.12 円～131.78 円 (-1%かい離)

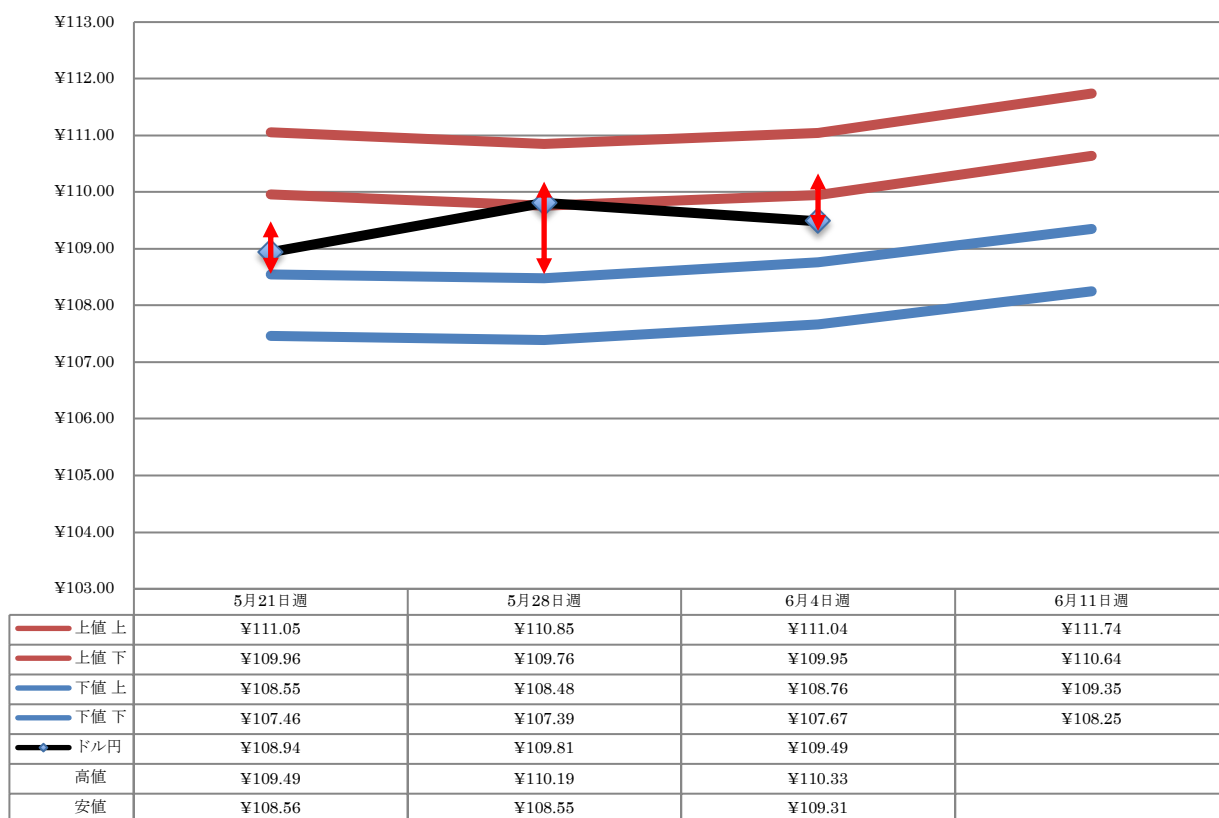
日経平均



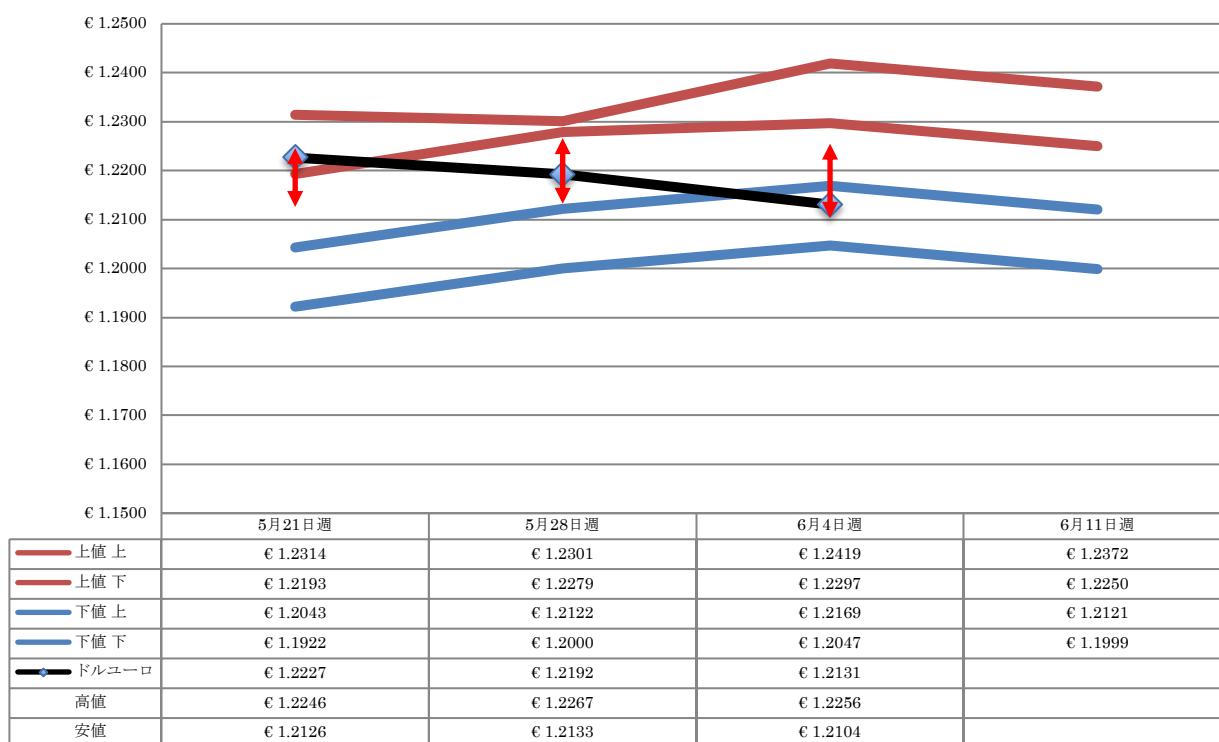
NYダウ



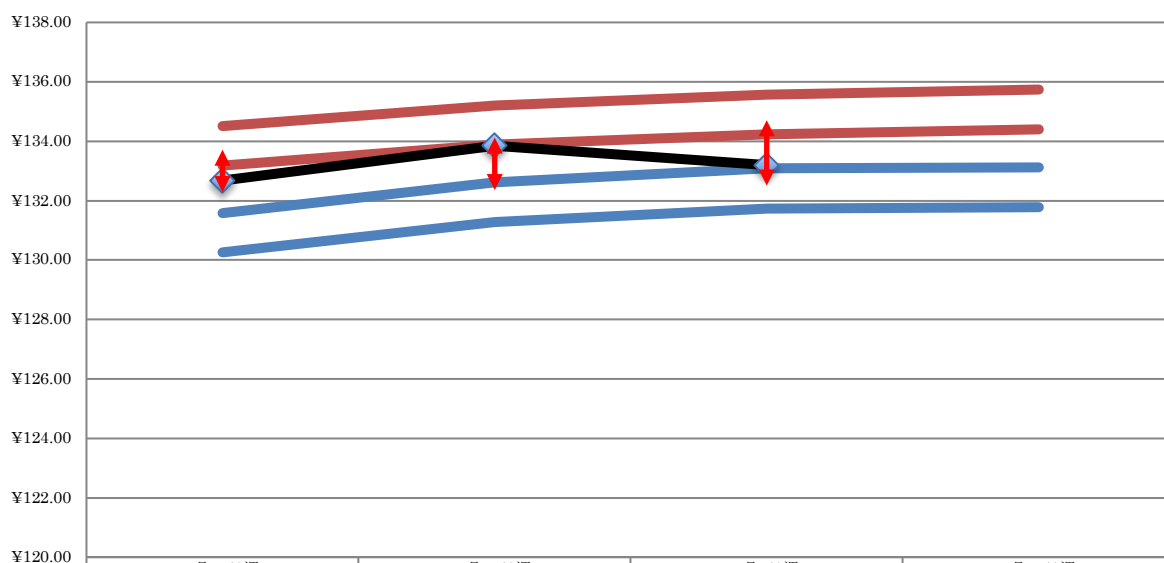
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

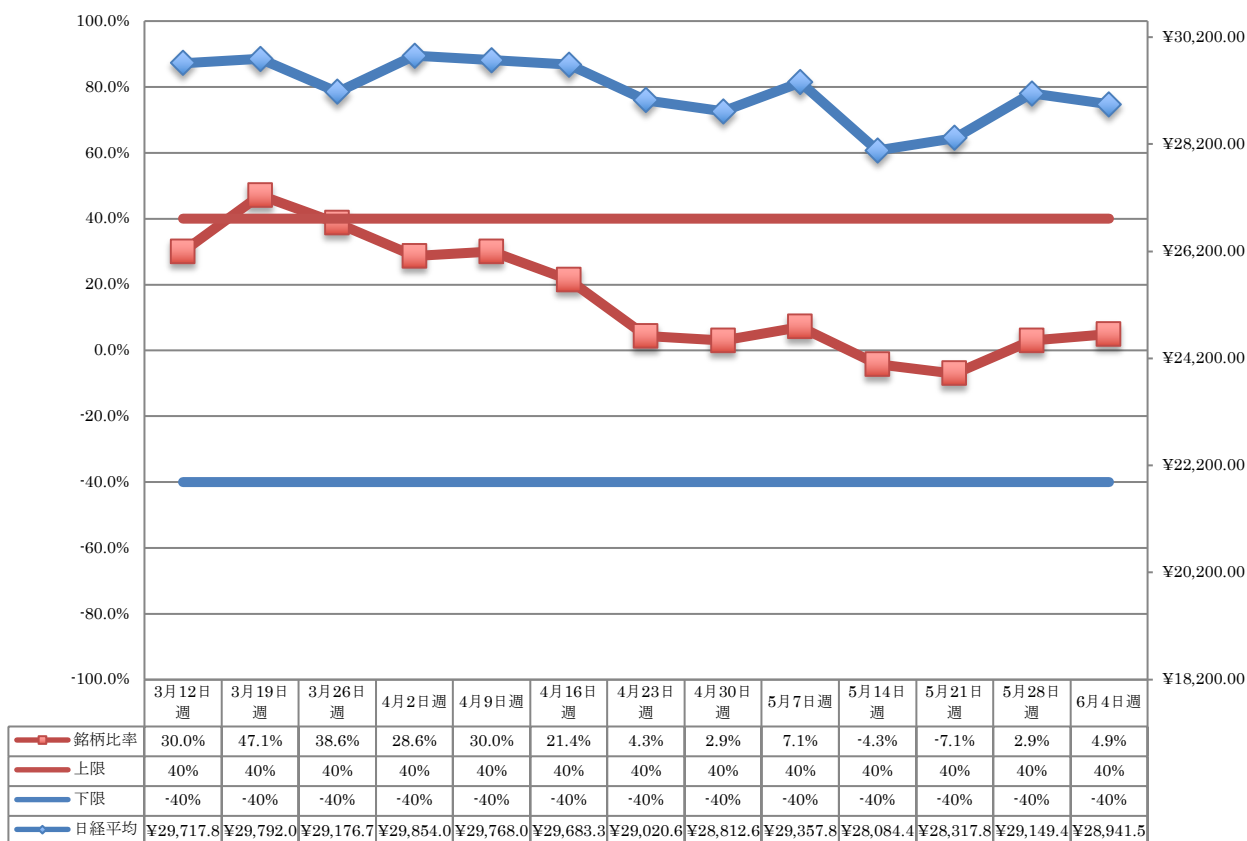


	5月21日週	5月28日週	6月4日週	6月11日週
上値上	¥134.51	¥135.21	¥135.57	¥135.74
上値下	¥133.18	¥133.88	¥134.23	¥134.40
下値上	¥131.58	¥132.62	¥133.08	¥133.12
下値下	¥130.26	¥131.29	¥131.74	¥131.78
ユーロ円	¥132.68	¥133.85	¥133.19	
高値	¥133.72	¥134.12	¥134.71	
安値	¥132.29	¥132.35	¥132.50	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%→4月16日週+21.4%→4月23日週+4.3%→4月30日週+2.9%→5月7日週+7.1%→5月14日週-4.3%→5月21日週-7.1%→5月28日週+2.9%→6月4日週+4.9%と、5月14日週に、昨年8月3日週以来、40週間振りにマイナス圏に陥り、「大きな相場の転換点を示唆したかたち」と指摘しましたが、直近は2週連続でプラス圏に一旦、浮上しています。『上昇相場はここで一旦終了し、これからは株価が上昇してもリバウンドの域を出ず、むしろ株価がいつ底となるのかに注意が必要な時間帯に入ることになります。』と指摘しましたが、同指標が再びマイナス圏に陥るとき大きな下落に発展することは昨年の「コロナショック」でも証明済みで、再び、マイナス圏に陥ると要注意です。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。